

# 福井市 社保協ニュース

2017年3月発行  
連絡先：福井市光陽3丁目4-18  
(福井民医連ビル内)  
TEL 27-6648

## 学習会

### 60名以上の参加で大成功 市社保協の設立の必要性を痛感

2月25日、福井県社会福祉センターにて福井市社会保障推進協議会(市社保協)の結成総会と学習会を行いました。

当日、会場には60名をこえる市民が

参加し、福井市で社保協を結成し、いのちや暮らしを守る、社会保障運動をさらに強めていくことの重要性を学びました。

当日の学習会の内容は裏面に。ぜひご覧ください。

## 結成総会

### 結成宣言(活動方針案)・役員を決定

結成総会で結成宣言(活動方針)を確認し、代表委員や事務局体制と運営委員を決定しました。

#### ■代表委員

天津 亨 (光陽生協病院副院長)  
佐々木 紀明 (福井民医連事務局長)  
村井 弘子 (新日本婦人の会福井市支部長)

#### ■事務局

鈴木正樹【局長】  
鈴木英樹  
山野寿一



2月25日、結成総会と学習会の様子。会には60名以上の市民が集まり一緒に学びあいました。

#### 福井市社会保障推進協議会 結成宣言（活動方針）

私たちが住む福井市では、この10年間で、働く世代の実質賃金は1割以上減り、高齢者の年金も1割も減らされました。同じ時期に福井市の生活保護受給世帯は2倍以上に増加し、就学援助を受けている子どもの割合も3割も増加しています。市民全体がより貧しくなり、絶対的貧困が増加する中、子どもの貧困が広がっています。

いまや貧困や格差の問題は一部の貧しき人たちの問題ではありません。市民全体で乗りこえるべき問題です。

この様な中、医療の分野では国民健康保険税が値上げされ、後期高齢者医療制度が発足し、負担が増加し続けてきました。介護の分野では介護保険料が値上げされ、その利用者は限定され、サービスの負担料が増加し続けています。医療や介護、障害者福祉など、本来なら市民の貧困化を防ぎ、その命や暮らしを守るはずの社会保障制度には「お金がなければそのサービスを受けることができない」という実態が広がっています。

この様な実態を市民に知らせ、市民とともに社会保障制度を充実させる運動をひろげましょう。

それと同時に、市民の命やくらしを応援する活動をより豊かに広げましょう。

本日、私たちは市民の命やくらしを守る取り組みを強めるために、福井市社会保障推進協議会を設立し活動することを宣言します。

2017年2月25日  
福井市社会保障推進協議会  
代表委員 天津 亨  
佐々木 紀明  
村井 弘子

## 学習会

貧困の拡大  
子どもの貧困

# いま、福井市で活動を強める重要性が浮き彫りに

## ■切実な実態、進む貧困、もう黙って見ているわけにいかない…

当日の学習会では地域で実際に起きている事例の報告を受けながら、福井市の貧困の現状を学び合いました。その上で命や暮らしを守る医療・介護などの社会保障

制度がどうなっているか…を学び合い、どんな運動を起こすことが必要かを学びました。そして、取り組みの交流を行いました。

### お金がなくて病院にかかるない 子どもや高齢者の貧困の現状

子どもがインフルエンザで高熱が出ても治療費が払えず病院にかかりれなかつた母子家庭。年金が少ない70代の高齢者が必要なお薬を飲めず、食べ物もこと欠く…日々のクリニックにおける相談の中で見えてくる社会保障制度の不備と、その困難の実態を語っていました。



実態を語る岩井香織さん  
(光陽生協クリニック事務)

### 経済困窮状態や虐待にあう児童 むし歯の数が多い…20本注18本の虫歯も

子どもの虫歯の平均は1.5本。しかし経済的な困窮・虐待にあう子どもの虫歯の数はあきらかに多い。虫歯は治療しなければ必ず症状が進行するため「お金がないから治療できない」という状況がそのまま反映…貧困が子どもの歯をボロボロにし、その人生を壊しかねない…。



報告する田中ちはる歯科医師  
(光陽生協歯科医師)

### 10年間で進んだ貧困…もはや市民全体の問題

実質賃金が…

1割減  
100とすると  
H16年 H27年  
88.2%

生活保護の世帯

2.3倍  
H18年 H27年  
820世帯

中学の就学援助

3割増  
H18年 H27年  
9.44% 12.21%



もはや貧困が市民全体で乗り越えるべき課題となっていることを指摘。行政に実際に起きている問題をぶつけて制度の拡充を迫ることと、実際に助ける活動を強めるために市民がつながろう。

市民全体がより貧しくなり、絶対的貧困が広がり、子どもの貧困が広がっていく…全体を見れば

## ■命・暮らし・子どもを守る…こんな運動を広く、豊かに…

### 無料低額診療制度 治療から社保制度の総合的な相談へ



報告する田嶋清孝さん  
(光陽生協クリニック事務長)

医療機関が独自に、医療費の支払いを減免する無料低額診療制度(無低診)の相談件数はこの数年で5倍に…。

市役所からの紹介もあり、今では光陽生協クリニックなどのパンフレットを市役所内においてくれるまでになった。

無低診を、お金がなくても治療ができるというだけ終わらせ生活保護や行政の減免制度などにつなげ、命や暮らしを守る総合的な相談活動となるよう取り組んでいる。日々感じるのは社会保障制度の不備。さらに充実した制度をつくろう。

### 無料塾 子どもの貧困を教育者として見過ごせない

子どもの貧困率が16.3%。ひとり親家庭では2人に1人が貧困…児童虐待の根底には貧困がある。

無料塾に通うある子どもの両親は他界。一緒に暮らす祖父も病気で入院。こんな子どもたちを支える活動が必要。

今、学校は宿題やプリントの増加で教員が多忙化…一人ひとりの子どもたちに合わせた指導が困難で、できない子が置き去り…無料塾では子どもの親とこん談も行って、子どものありようを丸ごとつかみながら支援している。



報告する南部三喜男先生  
(無料塾講師・元教諭)

### 反貧困 地道な相談活動で一つひとつを解決

毎月の宣伝と地道な相談活動と相談者への支援活動を行ってきた。

80代高齢者が相談をきっかけに生活保護の申請につながったり、母子家庭の就学援助や借金の相談、様々な世代

から相談がよせられている。「あおぞら食堂」との助け合い食堂も開いている。

福井民医連 有志 ボランティアの会  
**あおぞら** 食堂  
やります！



報告する錦織龍彦さん  
(反貧困ネットワーク事務局長)